

平成 29 年 12 月 4 日

南の風 254

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

ミニバスではチャレンジカップの市予選も終わり、県決勝トーナメントに出場するチームが決定しました。予選を勝ち抜いたチーム、またシードされているチームの決勝トーナメントでの健闘を祈ります。

さて、予選の会場で「マンツーマンディフェンスの基準規則」についてとマンツーマンコミッショナーの旗の振り方について、いろいろな意見がでました。ここでは、それぞれのケースについて論じることは避けます。基本的に疑問がある場合は、地区組織のコミッショナー委員会を通して、県に確認することが必要です。

過去に、この南の風でも「マンツーマンディフェンスの推奨」について取り上げました。

今回は、重複することもありますますが根本的なことについて触れます。15歳以下の選手のために、マンツーマンの基準規則はどうあったらいいのか、またマンツーマンコミッショナーの在り方はどうあるべきかについてです。

始めに断っておきますが、**現在決められている「マンツーマン基準規則」**は守らなくてははいけません。決まったルールなので。但し、**運用は『選手のために』**が前提となります。コミッショナーの旗振りや指導が、選手のパフォーマンスに影響してしまうことはあってはならないことです。本末転倒になることは気を付けなければなりません。

私見です。組織（日本ミニ連）が考えなくてはいけないことは、『**手段の目的化**』を避けることです。ゾーンディフェンスを禁止してマンツーマンディフェンスを進めて行こうというのは、『**手段**』なのです。日本バスケットボール協会の大きな『**目的**』は、**世界と伍していく選手を育てる**ことです。そういった選手を育成するために、「マンツーマンディフェンスの推奨」を打ち出したのです。「ゾーンディフェンス禁止」が目的ではないはずで。

しかしおかしなもので、いろいろなケースを考えて規則を忠実に実行しようとする、細則がたくさん出てきてしまうのです。真面目に考え、履行しようとするほど細かくなり過ぎるのです。そうすると、いつの間にか『**手段**』だったはずの「ゾーンディフェンス禁止」が目的化して独り歩きしてしまうようになります。

『**目的**』は、世界と伍していくための育成年代のディフェンス強化であるはずで。ですから細かいポジショニングや動き方について、規則で縛ることは慎むべきです。

以下、私の考えを書きます。

- 1 引いたゾーンディフェンスは禁止。（ペイントエリアでの2-1-2や1-3-1など）
- 2 プレスディフェンスはどんな形態でも可とする。トラップはどんな状況でも仕掛けてよい。

※なぜなら戦術的に、あるいは負けていたり時間がなくなったりした時に、**プレイヤーが自分で考えてやるべきことをプレイすることができるようにする**。また、必要に応じてトラップに行きボールを持たさないようにする。これらは、『**状況判断能力を上げる**』という育成年代に欠くことのできない力を磨くことになるからです。 次号に続きます。